

# 中華民国中央図書館蔵『古尊宿語録』について

近藤良一

一

中華民国台北国立中央図書館所蔵の『古尊宿語録』は、昭和四十八年・四十九年の阿部隆一氏の調査によると次のような状態であった。<sup>①</sup>

古尊宿語録 存二五家三三卷（宋咸淳三年）刊（明州府・阿育王山広利禪寺）九冊。新補淡茶色覆表紙（二四・五×十五・九糎）、室町時代の筆による「古尊宿語録」の書題簽を附し、右肩に所収略書名を記せる渋引茶褐色古表紙が残されている。所収各書の首題序跋は次の如し。但し以下の次序合冊の現形は原形の通りではなく錯乱している。（中略）咸淳頃の刊刻にかかることを証明するのはその刻工名（故昶・徐泳・章震）である。

ところが、平成二年十二月に同図書館の積家部を調査された片山晴賢教授のご報告によると、平成二年九月に図書館による大幅の補修が行なわれ、室町期の筆になる題簽を附した表紙は破棄され、新たに白地に金箔を鏤めた表紙がつけられ、又題簽・巻数名もなく、古体を示すものは本文のみとなっていることである。<sup>②</sup>

今ここに中央図書館蔵本の順序を示すと次のごとくある。

- (1) 仏眼禪師語録
- (2) 汝州南院顥和尚語要
- (3) 汝州首山念和尚語録
- (4) 汝州葉縣広教省禪師語録
- (5) 潭州神鼎第一代誣禪師語録
- (6) 并州承天嵩禪師語
- (7) 石門山慈照禪師鳳巖集
- (8) 池州南泉普願和尚語要
- (9) 投子和尚語録
- (10) 睦州和尚語録
- (11) 趙州真際禪師語録
- (12) 舒州法華山拳和尚語要
- (13) 筠州大愚芝和尚語録
- (14) 雲峰悦禪師初住翠巖語録
- (15) 袁州揚岐山普通禪師会和尚語録
- (16) 潭州道吾真禪師語要

- (17) 雲門匡真禪師広録
- (18) 滌州琅琊山覺和尚中後四録
- (19) 舒州白雲山海会演和尚語録
- (20) 宝峰雲庵真浄禪師語録
- (21) 大隋神照禪師語要
- (22) 子潮山第一代神力禪師語録
- (23) 鼓山先興聖国師和尚法堂玄要広集
- (24) 襄州洞山第二代初禪師語録
- (25) 智門祚禪師語録

となっており、三つの板帙に分けられ保存されている。

本書と同版と言われるお茶の水図書館蔵(徳富蘇峰・成簀堂旧蔵)本の順序を見ると、

- 第一卷 普願和尚語要 投子和尚語録 睦州和尚語録
- 第二卷 慧照禪師語録
- 第三卷 真際禪師語録
- 第四卷 神照禪師語録 神力禪師語録  
鼓山先興聖国師法堂玄要広集
- 第五卷 洞山初禪師語録 智門祚禪師語録

- 第六卷 顛和尚語要 念和尚語錄 省禪師語錄  
第七卷 湮禪師語錄 嵩禪師語錄 慈照禪師鳳巖集  
第八卷 舉和尚話錄 芝和尚語錄  
第九卷 悅禪師語錄 会和尚語錄 真禪師語要  
第十卷 雲門匡真禪師広録 上  
第十一卷 雲門匡真禪師広録 中  
第十二卷 雲門匡真禪師広録 下  
第十三卷 雲門庵主頌古  
第十四卷 琅琊和尚中後四録 同中後録 同拈古  
第十五卷 白雲和尚語錄  
第十六卷 黃梅東山語錄 真淨禪師語錄  
第十七卷 住洞山語錄 報寧語錄  
第十八卷 歸家語錄 住宝峰語錄  
第十九卷 雲庵禪師偈頌  
第二十卷 仏眼禪師語錄

の二十七家・二十二冊となっている。この二本は同版と言いながら、その順序及び収録者の数に異りが見られる。ここでこの二本の成立を見ると、本書・お茶の水図書館本の巻首に北宋末の涇蹟藏主編を福州鼓山寺で淳熙五年（一一七

八) に出版したものを重刊したということ述べている。さらに、本書には欠けているが、お茶の水図書館本の巻首には、聖宋咸淳丁卯清明日江浙等処明州府阿育王山広利禅寺住持沙門物初大観序の「重刊古尊宿語録序」と、附記に「覺心居士魏氏重録古尊宿語」が附されている。これらによって南宋末の咸淳三年(一二六七)に阿育王山広利禅寺に於いて重刊されたものであることが判る。

ではこの重刊以前の『古尊宿語録』はどのような成立内容であったのであろうか。鼓山寺版で現存するものは、天理大学図書館(続集第五・六集補写)、大東急文庫(存続集・補写を混入、且つ前葉の一部が混綴さる)、国立国会図書館(存第二・続第二・四一六)、無著道忠校写本(花園大学蔵)が挙げられる。鼓山寺版以前の刊行は天理図書館本の首山念の巻末に「新興院比丘尼興覚捨財一十五貫文足敬刊首山念和尚語録一秩普願見聞發明心地同証菩提紹興九年端午日題」との識語があるところより、南宋紹興九年(一一三九)の刊行であった。<sup>(4)</sup>このように北宋末・南宋紹興九年・淳熙五年さらに本書と刊行を重ねている。この紹興本については現在未見であるが、鼓山寺版天理図書館本『正古尊宿語録』では、

- 一集(上) 南泉 投子 睦州 (下) 趙州
- 二集(上) 南院 首山 葉縣 (下) 神鼎 承天 石門
- 三集(上) 法華拳 大愚芝 (下) 雪峰 楊岐 道吾
- 四集(上) 大隋 子湖 興聖 (下) 洞山 智門

と、四策・二十家の内容となっている。これは無著道忠校写本『古尊宿語要』と同一であり、無著が『正統古尊宿語録』(龍華院蔵<sup>(5)</sup>)で述べているように、古くは南泉以下智門の順序であった。

『古尊宿語錄』の宋代の刊本は極めて少なく、伝存の諸家蔵本も残巻であったり、或いは序跋を欠いている。今日流布しているのは後代に改編された明蔵本である。さらに大正新脩大蔵經所収のものは、多くの古本をもって校合しようとした編集方針によって明蔵本を分解して使用した為か、かえって古い形を不明ならしめる結果となっている。今日『古尊宿語錄』に関する研究が盛んに行なわれているとは考えられない理由の大きなものは、諸本の本文提供が実施されてない点に存しよう。

二

中国の最盛期の禅の記録を総括して今日に伝えるこの『古尊宿語錄』の名称は重刊以後のものであり、本来は無著が説くように『古尊宿語要』と呼ばれていたが、時代が移りそうした古版は日本や朝鮮に伝えられた以外、中国ではその伝を断った。そして中国では版を重ねて続編が刊行され、数度の増補を経て明蔵に入蔵するのである。かくして今日『古尊宿語錄』と言えば、この明蔵の系統（黄檗版・清版・縮刷蔵經・続蔵經）がその正系であるかの如き見方がなされているのが現状ではなからうか。

ここで中央図書館本の特徴を示すとともにその資料的価値を確認する為に本書と天理図書館・無著校写本及び明版大蔵經本との三本を簡単に比較してみることにしたい。尚ここでは、天理図書館本・無著校写本を鼓山本・鼓本、本書を重刊本・重本、明版大蔵經所収本・駒澤大学蔵本を明蔵本・明本と略称する。なお、鼓本の丁数は無著校写本をさす。

		(1)					鼓山本
序三本共卷首 上卷	趙州真際禪師語録	序あり	睦州和尚語録	序三本同じ。	投子和尚語録	後題 三本共圓悟禪師克勤題。 序なし	池州南泉普願和尚語要 この冊の初に南泉・投子・睦州・趙州の各略伝あり。
上卷	趙州真際禪師語録	序あり	睦州和尚語録		投子和尚語録	序なし	池州南泉普願和尚語要 鼓本と同じ各略伝あり。
(卷第十三)	趙州真際禪師語録(卷第十三・十四)	睦州の略伝巻尾。 序巻尾に十五行二九三字の増補。	睦州和尚語録(卷第六)	投子の略伝巻尾。 序巻尾	投子和尚語録(卷第三十六)	序巻首に二丁八百字の増補。	池州南泉普願和尚語要(卷第十二) 南泉の略伝巻尾にあり。

(4)

鼓本・重本の上巻の末は「師云中也」となっているが、明本（十三巻、二十六表五行）二十丁表三行）の部分に鼓本・重本の中巻（鼓本・中巻一丁裏三行）二丁裏一行、重本上一三四負一行）上二三五頁七行）・「問白骸」）「你是觀面漢」（三百六十字）の文を入れて十三巻末としている。

〔卷第十四〕

「師上堂示衆」と鼓本・重本の中巻と同じく始まっているが前述の（鼓本中巻一丁裏三行）二丁裏一行、重本上一三四頁一行）上二三五頁七行）三百六十字は除かれている。

卷第十四・十四丁裏八行より鼓本の

中巻

鼓本・下巻末にある「十二時歌」を

中巻（上一五七頁）上二六〇頁）に

挿入

（お茶の水中巻にあり）



		(5)		
	汝州首山念和尚語録	序三本共なし 神鼎・承天・石門の各略伝あり	汝州南院顒和尚語要 この冊の初めに南院・首山・葉縣・	下巻 卷末に「鼓州鼓山重刊印行」の八字あり。重・明本なし。
	汝州首山念和尚語録		汝州南院顒和尚語要 略伝鼓本と同じ。	下巻
	汝州首山念和尚語録(卷等八)	卷首に首山の「師諱省念萊州狄氏」と八字略小伝あり。鼓本、重本上二二七頁一行「師諱く晚造」(勘弁語二十丁裏十行)の二十八字明本なし。二十五丁表二行「偈頌示衆」「諸子	汝州南院顒和尚語要(卷第七) 卷首に南院の「師諱慧顒河北人也」と八字の略小伝あり。	下巻をつないでいる。 「十二時歌」は鼓本と同じく卷十四の末に。

		(7)		(6)
序なし	潭州神鼎山第一代譚禪師語錄		汝州葉縣広教省禪師語録 序三本共なし	卷末に「新興院比丘尼興覺捨財一十五貫文足敬刊首山念和尚語録一秩普願見聞發明心地同証菩提紹興九年端午日題」の識語あり。
序なし	潭州神鼎山第一代譚禪師語録		汝州葉縣広教省禪師語録	
本上三〇三頁「師行脚」〜三〇四頁	潭州神鼎山第一代譚禪師語録(卷第二十四) 卷首に二六七字の序あり。これは鼓本十四丁表八行〜十四丁裏五行、重本上三〇三頁「師行脚」〜三〇四頁	十一字増補。 傳襄州師拽童子打一掴便喝出」の二十九丁裏六行「師便礼拝」の次に鼓本・重本にない「問僧近離甚麼處僧	汝州葉縣広教省禪師語録(卷第二十二)	謾波波過却幾恒河觀音指彌勒文殊不奈可」の二十四字増補。

	(9)		(8)
石門山慈照禪師鳳巖集	序三本共なし	并州承天嵩禪師語	卷末に「福州城居女弟子韓八娘捨錢一十貫刊刻神鼎禪師語録一編報答恩友同圓種智」の識語あり。
石門山慈照禪師鳳巖集		并州承天嵩禪師語	鼓本十一丁表と十二丁裏にかけての部分、重本上二九六頁の最終の部分「真月師云照」の次から上二九七頁最初の部分「問六国」の前に三百二十九字脱。 (お茶の水本同)
石門山慈照禪師鳳巖集 (巻第九)	五十六字の増補あり。	并州承天嵩禪師語録(巻第十、十二丁裏)	「怕多口」を入れて序にしたもの。重本脱の部分、明本では十三丁表九行「看破也日照」の次、十四丁表六行「開撥塵」の前までに挿入されている。

	(12)	(11)	(10)
序あり	雲峰悦禪師初住翠巖語録	筠州大愚芝和尚語録 月題」の識語あり 増上縁連證菩提同圓種智紹興九年八月	舒州法華山拳和尚語要 この冊の初めに法華・大愚・雲峰・楊岐・道吾の各略伝あり。 巻尾に「鼓山比丘普如捨長財一千刊刻法華拳道者語録一小編普為恩有結増上縁連證菩提同圓種智紹興九年八月題」の識語あり
序あり	雲峰悦禪師初住翠巖語録 刻を修正した細字あり。	筠州大愚芝和尚語録 上四〇一頁十一、十二行に鼓本の誤	舒州法華山拳和尚語要 鼓本と同じ略伝あり
序なし	雲峰悦禪師初住翠巖語録(卷第四十・四十二)	筠州大愚芝和尚語録(卷第二十五)	舒州法華山拳和尚語要(卷第二十六) 略伝なし 序巻尾 鼓本十五丁裏十行、十六丁表一行、重本上三五三頁七行「今上皇帝、外揚仏教」明本(十六丁表五行)なし

<p>(16)</p> <p>序あり</p> <p>洞山・智門の各略伝あり。</p>	<p>大隋神照禪師語要</p>	<p>(15)</p> <p>序三本共なし</p> <p>潭州道吾真禪師語録</p>	<p>(14)</p> <p>卷首に文政・楊傑の序あり</p> <p>袁州揚岐山普通禪院會和尚語録</p>	<p>(15)</p> <p>三本共黄庭堅の跋文あり。</p>
<p>序あり</p>	<p>大隋神照禪師語要</p> <p>鼓本と同じ略伝あり</p>	<p>潭州道吾真禪師語録</p>	<p>鼓本と同じ序あり。</p> <p>袁州揚岐山普通禪院會和尚語録</p>	
<p>序あり</p>	<p>大隋開山神照禪師語録</p>	<p>鼓本十一丁、重本上五四九頁の「庭前柏」「靈雲桃花」の二頌は「百丈野狐」の次に挿入。</p>	<p>潭州道吾真禪師語録（卷第十九）</p> <p>この文政・楊傑の序を次の(15)道悟禪師語要の末（二十二丁裏）に入れている。</p>	<p>鼓本十六丁裏七行、重本上四五九頁八行の間に「上堂一道直く何愁不太平下座」の三百八十六字増補</p> <p>袁州揚岐山普通禪院會和尚語録（卷第十九）</p>

	(18)		(17)	
三本共序なし	襄州洞山第二代初禪師語錄 士珪跋文	鼓山先興聖國師和尚法堂云要広集 紹文序	子湖山第一代神力禪師語録 慧覚の序	子湖山第一代神力禪師語録
	襄州洞山第二代初禪師語錄 士珪跋文	鼓山先興聖國師和尚法堂云要広集 紹文序 上六四五頁三行に鼓山の誤刻を修正した細字あり（お茶の水本同）	子湖山第一代神力禪師語録 序鼓本と同じ 上五九〇頁九行「從此省語」の次々に鼓本卷末にある「師別時有頌」「又」「臨行示頌三首」を挿入。 鼓本と同じ讚あり。	子湖山第一代神力禪師語録 （卷第十二）
	襄州洞山第二代初禪師語録（卷第三十八）	鼓山先興聖國師和尚法堂云要広集卷第三十七 巻尾に紹文序・士珪跋文・略伝あり。	衢州子湖山第一代神力禪師語録 二十四丁裏「不肖一踏」と「師於門前」の間に「師嘗作頌」も「臨行示頌」あり。 巻本に讚のかわりに子湖の略伝あり。	

<p>(19)</p> <p>卷尾に「僧紹雄奉為狂堂嚴父爰乃自身賽還心願捨錢刊刻洞山禪師語録一編以広其伝普使見聞洞明真際心願圓満福慧莊嚴」の識語あり</p>		
<p>(20)</p> <p>序あり</p> <p>智門祚禪師語録</p>	<p>序あり</p> <p>智門祚禪師語録</p>	<p>序卷尾</p> <p>智門祚禪師語録（卷第三十九）</p>

以上二十家を比較してみたが、重刊本には(12)筠州大愚和尚語録の卷首に

答云膝工閣下千峯秀孺子亭簿霧生僧云如

何是境中人答云出入敲金鎧朱衣對錦屏

と細字双行の書込みが存し、また(18)興聖の語録に於いては旧本の誤刻が修正されている。さらに(4)真際、(17)子湖に於いては増補されているのが見られるなど、修訂箇所が存するものの大筋では原型のままの重刊で古い形を残している。これに比して、明蔵本の増補と整理は最善のものとは評価できなく、便宜的なものであり、あくまで明代の再編であつて、そのまま宋版の重刊とすることはできないことが以上の比較表からも証せられよう。

(1) 『増訂中国訪書志』五三四頁〜五三六頁参照

- (2) 吾人らは片山教授らと共に、近くこの影印本を臨南寺叢書第一『宋重刊 古尊宿語録』上・下として刊行する予定である。
- (3) 阿部氏前掲書五三六頁
- (4) 「舒州法華山拳和尚語要」の巻尾に「鼓山比丘普如捨長財一千刊刻法華拳道者語録一小編為恩有結増上縁連證菩提同圓種智紹興九年八月題」（本書Ⅱ八頁上段）とあるところからもこれが証せられる。
- (5) 上記『宋重刊 古尊宿語録』に附載する予定である。
- (6) これまでの『古尊宿語録』の成立に関する研究としては、僅かに無著道忠の『無著校写古尊宿語要』（花園大学図書館蔵）・『正統古尊宿語録』・『鼓山元撰古尊宿語録校訛』（二冊四巻）・『旧撰続古尊宿語録校訛』（以上京都龍華院蔵）、宇井伯寿「古尊宿語録について」（『第二禅宗史研究』所収）、柳田聖山「古尊宿語録考」（『花園大学研究紀要』第二）、椎名宏雄「『古尊宿語録』正統諸本の系統」（『曹洞宗研究員研究生紀要』十三）、野沢佳美「明代南蔵本『古尊宿語録』について」（『禅学研究』六八）などを見るに過ぎない。
- (7) 無著道忠『無著校写古尊宿語要』参照。
- (8) 中国で伝を断ち日本で伝えられた古版としては、本書と同時代の『禅苑蒙求』なども挙げられる。筆者監修『禅苑蒙求』近思文庫編輯・東豊書店刊を参照。